



## 博士課程における女性比率と留学生の関係についての考察

文部科学省は2012年12月21日に、平成24年度の学校基本調査の結果を公表しました。学校基本調査は「学校に関する基本的事項を調査し、学校教育行政上の基礎資料を得ることを目的」とするものです。

第4期科学技術基本計画(平成23～27年度)において、【3. 科学技術を担う人材の育成(2) 独創的で優れた研究者の養成③女性研究者の活躍の促進】<推進方策>には、「**国は、現在の博士課程(後期)の女性比率も考慮した上で、自然科学系全体で25%という第3期基本計画における女性研究者の採用割合に関する数値目標を早期に達成するとともに、更に30%まで高めることを目指し、関連する取組を促進する。特に、理学系20%、工学系15%、農学系30%の早期達成及び医学・歯学・薬学系合わせて30%の達成を目指す。**」とあります。採用目標値の元になっている“博士課程(後期)の女性比率”は、この学校基本調査に基づくものです。

博士課程 在籍者数	理学		工学		農学	
	在籍者数	女性比率	在籍者数	女性比率	在籍者数	女性比率
平成24年	5,178	18.3%	13,741	16.3%	3,798	33.8%
平成23年	5,255	18.9%	13,944	15.8%	3,890	32.4%
平成22年	5,120	19.0%	13,822	15.1%	3,900	31.1%
平成13年	6,302	15.9%	12,165	10.1%	4,361	25.1%

上記の表は、学校基本調査より、理学、工学、農学について博士課程における在籍者数を抜き出し、その女性比率を計算したものです。それぞれの研究科において、平成13年よりも女性比率が高くなって来ていることがわかります。ただし、工学、農学では、ここ数年で採用目標値である15%、30%を越えて更に高くなっているのに対し、理学では採用目標値20%を越えることなく、逆にこの数年は下がり始めています。この理由は外国人留学生の増加にあると考えられます。

平成24年度 博士課程 外国人学生数	理学		工学		農学	
	人数	比率	人数	比率	人数	比率
合計	846	16.3%	4,690	34.1%	1,263	33.2%
男性	550*	13%*	3,330*	29%*	638*	25%*
女性	296*	31%*	1,360*	61%*	625*	49%*

\* 推定値

大学院(修士・博士・専門職課程)における外国人学生数は、平成13年に21,774人(全在籍者の10%)に対して、平成24年では37,733人(同15.5%)と増えています。特に外国人女性は、平成13年に8,941人(全在籍者の15.2%)だったのに対し、平成24年には18,393人(同24.6%)と大きく増えています。

特にこの流れは博士課程において顕著であり、**工学・農学では博士課程学生の約1/3が外国人**であることが、平成24年度の学校基本調査で初めて明らかとなりました。外国人学生の博士課程のみにおける男女内訳は公表されていませんが、大学院全体における男女比率と同じであると仮定\*すれば、**工学では女性の5人に3人、農学では女性2人に1人が外国人留学生**だということになります。つまり女性留学生の大幅な増加が、工学、農学の博士課程における女性比率の上昇理由であると推定できます。これに対して、理学系では、工学・農学に比べて留学生比率が低いため、この数年で比率が下がり始めているものと考えられます。

この考察から、女性研究者の採用を進めていく上で考えなければならない課題が二つあります。一つは、優秀な女性留学生をいかに日本に繋ぎ止め採用に結びつけるか、二つ目は日本人女性の博士課程への進学をいかに増やすか。これらが継続的に男女共同参画やダイバーシティを推進するために必須であると思われれます。(小木曾)

